

アルノー・デプレシャン監督作品

そして僕は恋をする

Comment je me suis disputé...<ma vie sexuelle>

1996年/フランス/ホワイナットプロダクション/2時間58分/カラー/ドルビーステレオ DOLBY STEREO /配給セテラ Cetra

1996年カンヌ国際映画祭正式出品作品・1996年トロント映画祭招待作品・1996年ニューヨーク映画祭招待作品

アルノー・デプレシャン監督作品

そして僕は恋をする

Comment je me suis disputé...<ma vie sexuelle>

1996年/フランス/ホワイナットプロダクション/2時間58分/カラー/ドルビーステレオ DOLBY STEREO /配給セテラ Cetra

1996年カンヌ国際映画祭正式出品作品・1996年トロント映画祭招待作品・1996年ニューヨーク映画祭招待作品

(ma vie sexuelle)

(ma vie sexuelle)

そして私たちはこの映画に恋をするだろう。

トリュフォーの描く恋。
デプレシャンの描く恋。

パリの若者たちの絶対的支持を得て、
評判が急上昇していった
パリ最新ヒット作が早くも日本にやって来る。
現代、パリ6区サンジェルマン・デ・プレ
界隈を舞台に織りなされる恋のゆくえ。
フランス映画の香りを漂わせながら、
あきらかに何かが新しい。
説明のつかないこの素敵な気分は、
それはこの映画の中の空気が
動いているからだ。
だからこの2時間58分という長さが心地良い。
ずっと観ていたい。
トリュフォーがスーザン・ヴァーグにおける
恋愛映画の原点を築いたとしたら、
デプレシャンはそのひとつの頂点を極めた。
そして私たちはこの映画に恋をするだろう。

そして僕は恋をする

Comment je me suis disputé...<ma vie sexuelle>

製作:ホワイネット・プロダクション 監督:アルノー・デプレシャン

脚本:アルノー・デプレシャン / エマニュエル・ブルデュー

撮影:エリック・ゴティエ 音楽:クリシュナ・レヴィ

出演:マチュー・アマルリック / エマニュエル・ドゥヴォス / マリアンヌ・ドニクール /

エマニュエル・サンジェ / ティボー・ド・モンタランペール / ジャンヌ・パリバール /

キアラ・マストロヤンニ / ファブリス・デプレシャン

アルノー・デプレシャン監督作品 続々公開決定!!

『死人たちの生活』

1991年/52分/カラー

デプレシャンの名を世に知らしめたデビュー作、中編。あるブルジョワ家庭の息子が自殺未遂で昏睡状態に。病院からの知らせを待つ間の家族・友人たちの心理を、卓越した演出力で見せる。

'91アンジェ・フィルムフェスティバル特別賞受賞/91ジャン・ヴィゴ賞受賞/92カンヌ映画祭批評家週間正式出品 他

『歩哨(仮)』

1992年/140分/カラー

長編第一作。ドイツから故郷・パリに向かう列車の中、若い解剖学学生が自分の鞄の中に、ミイラ化した人間の頭を発見する。一体誰が何の目的で? 繊密な映像と演出で魅きつけるスパイ・スリラーの傑作。

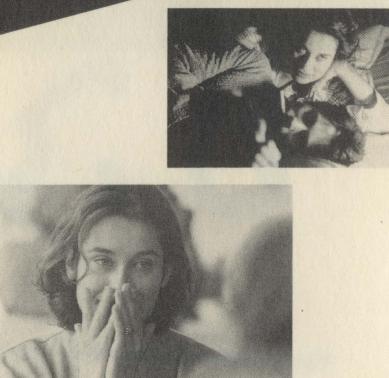
'92カンヌ映画祭コンペティション正式出品/'92セザール賞3部門ノミネート/'92ヨルジ・サドゥール賞受賞 他

S t o r y

ポール・デダリエス、29歳。パリ大学の講師という今の仕事はその場のぎ。この職からさっそく足を洗いたいのだが、そもそも出来ずに2年になる。当然、教授になるための博士号もとれないままだ。こうして彼は、そこそこの収入でそこそこの人生を過ごしてきたが、つねに何かが起ころうとしていた。その何かとは彼が言うところの“眞の人間としての人生の始まり”に他ならない。

ポールにはずっとつき合っているエステルという彼女がいるが、なんとなく10年経ってしまったという感じだ。そんな彼が新たな女性シルヴィアと出会い、恋に落ちたのは2年前のこと。しかし彼女は実は彼の一番の親友の恋人だった。彼女のことが忘れられないポールであるが、他人の恋人を奪い取るなんて自分には出来っこない!

かくして、ポールの人生との格闘がはじまつた……。



今フランスを席巻する
“デプレシャン現象”



'91年に『死人たちの生活』で期待の新人監督に贈られるジャン・ヴィゴ賞を受賞、翌'92年には、『歩哨(仮)』でカンヌ映画祭正式出品作品に選ばれたほか、セザール賞3部門ノミネート、ヨルジ・サドゥール賞受賞など、すでにその卓越した才能は世に認められている。N.Y.やサンダンスの映画祭のみならず、同年の〈ピアフィルムフェスティバル〉では日本にも招待され、観客の心に深い印象を刻みつけ、驚異の新人監督出現を我々にアピールした。

そんな彼が、'96年『そして僕は恋をする』をもってカンヌに新たなセンセーションを巻き起こした!! 今や、フランスのエンターテインメント系雑誌の表紙を独占していると言っても過言ではない弱冠36歳の

デプレシャンの存在は、この新作で完全にメジャーに躍り出た。興行成績も少数館ながら初登場でベストテン入りし、レオス・カラックスが世に出た時以上のその注目度は、映画の領域を飛び出して、ひとつの社会現象と呼べるに至っている。

フランス映画界から満を持して出た久々にスター性ある寵児である。



各誌震撼!!

フランス映画界の期待を一身に集める突出した才能 アルノー・デプレシャン

●動作と思考、言葉と映像のギャップから生まれてくる滑稽さのアンバランスは、台詞と素晴らしい役者たちに支えられている。……アルノー・デプレシャンという偉大な監督が出現したことを、私たちは認めよう。——〈カイエ・デュ・シネマ誌〉

●話題をまき散らしたカンヌ映画祭から1ヶ月後、興行成績と共にこの映画の評判はうなぎ登りに上昇し、ついには「同世代層」に震えを巻き起こすに至った。——〈リベラシオン紙〉

●会話をやり立てる理知も、各ショットに走る戦慄を前に消えていく。デプレシャンの希有な才能がここにある。この作品の上映時間は長すぎる、という古臭い考えを捨てなくてはならないだけは、どうしても言っておきたい。——〈テレラマ〉

●デプレシャンは映画の手法としてのあらゆる前例を踏襲しながら、それら全てを超える快挙を成し遂げた。デヴィッド・リンチも嫉妬を覚えるだろう。——〈レザンロックプティーブル〉

●知性と勇氣。これがアルノー・デプレシャンの新作を語る言葉だ。

『そして僕は恋をする』はさまざまな幸福を感じながら名釀ワインのように味わう作品だ。時間をとて観る価値のある、希有な一本である。——〈ステュディオ・マガジン〉

6月28日(土)より待望のロードショー!(7/11まで)

特別鑑賞券1,500円発売中! (当日一般1,800円/学生1,500円のところ)

★劇場窓口にて特別鑑賞券を買上げの方には特製ポストカードプレゼント!

◎特別鑑賞券はパラダイス・シネマ窓口、阪急、EST、パルコ、心斎橋そごうP.Gほか市内各プレイガイドにてお求め下さい。

アメリカ村 Big Step4F 06-282-1460

パラダイス・シネマ

連日 12:20 3:40 7:00